

中央市立豊富小学校

平成27年度の研究の概要

1 研究主題

自ら学び，考える児童の育成
～学び合いを大切にした授業づくりを通して～
(4年次)

2 主題設定の理由

生涯にわたって生きてはたらく確かな学力を一人ひとりの児童に保障することが、学校教育の使命である。また、学校は、集団の中で他者とかがわって学習・生活する中で、人間関係のあり方を学ぶ場であり、今後社会の中で生きていくために必要な協調性やかしこさ・たくましさを身に付けていく場である。

児童が学校で学ぶことの意義を突き詰めていくと、「学び合い」に行き着く。単なる知識伝達の場ではなく、異なる経験や考えをもつ者同士が集団で多様な考えを交わし合う中で、一人ひとりの考えやみんなの考えを深められることが、学校で学ぶ本質的な意味である。多様な考えを尊重する「学び合い」を大切にした授業づくりを実現していくことで、本主題「自ら学び，考える児童の育成」を推進し、学校教育目標の具現化を図っていく。

3 研究目標

児童の思考を促す「学び合い」を大切にした授業づくりを研究し、授業を改善していくことにより、自ら学び，考える児童の育成に迫る。

4 研究仮説

(A) 教科の学習において、(B) 学び合いを深めるような手立てをとり入れることで、(C) 自ら学び，自ら考える児童が育成されるであろう。

(A) 教科の学習 (今年度は算数・理科を中心に)

(B) 学び合いを深めるような手立て

- ア) 学び合いの場面の設定
- イ) 学び合いが成立するための技術を身に付けさせる (発表の仕方・聴き方・話し合い方・書き方)
- ウ) 学習課題の提示の工夫 エ) 個人の考えを持たせる工夫 オ) 教師の児童への関わり方
- カ) 児童同士の反応のつなげ方や方向付け キ) 板書による整理・関連付けの工夫 ク) 授業過程の工夫
- ケ) 見通し→まとめ・振り返りを授業の中に位置づける

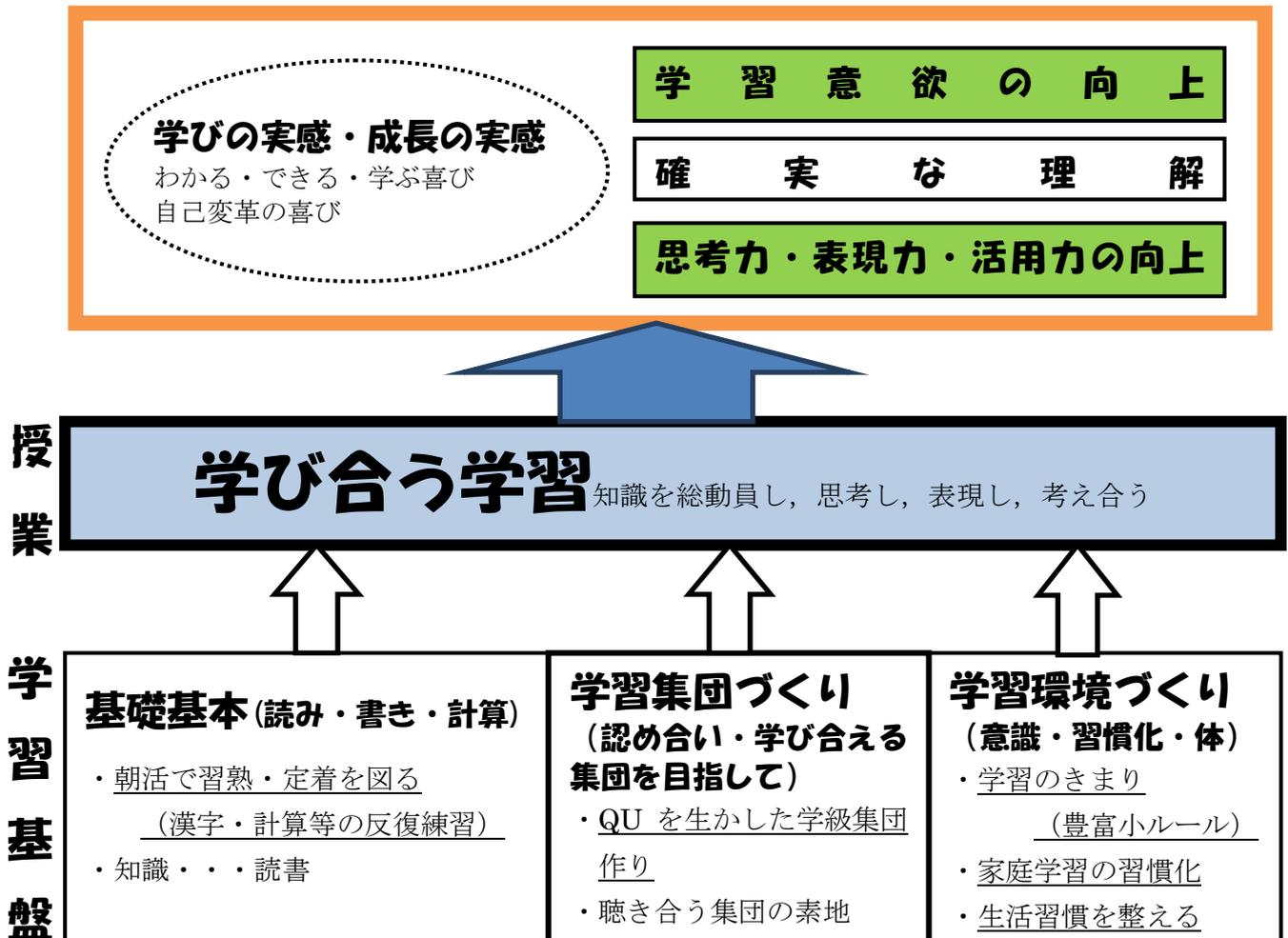
(c) 自ら学び、自ら考える児童

- ① 学習に対する意欲がある児童 (やってみよう・試してみよう・こんなことを学習してみたいな)
- ② 思考する児童 (どうしてかな・考えてみよう・友達の考えと比べてみよう)
- ③ 学びの実感をもてる児童 (わかった・できた・自分は変わった)

5 構想図

学力向上
をめざして

・・・わかる・できる喜びや学ぶ喜びを伴った総合的な学びを目指す。



6 研究内容

授業づくり部会

- 児童の実態把握
 - ①「授業や学習についてのアンケート」（1学期，3学期）
 - ②各種学力調査
 - ③教師による観察
- 理論研究
 - 「学び合い」や授業過程における「見通し・まとめ・振り返り」についての理論研究
- ブロック研究
 - ・低・高学年ごとに実態分析を行い，研究テーマや研究内容，研究計画を決め実践していく。
 - ・学び合いにかかわるスキル（話す・聴く・発表する等）の発達段階にそった系統指導
 - ・ブロック提案の研究授業の授業案づくりと準備
- 一人一実践の授業開示（算数・理科）
- ブロック代表の研究授業

学習基盤部会

- 基礎基本の定着ブロック
 - ・朝活の効果的な運用を実現していく。
- 学習集団づくりブロック
 - ・Q-U検査（5月と11月末）を活用した計画的・継続的な望ましい学習集団づくりに取り組む。
- 学習環境づくりブロック
 - ・学習への意識を高め，学習への構えや学習習慣を定着させていく。
 - ①学習規律を共通指導し，確立する。・・・学習のきまり（とよとみルール）
 - ②家庭と連携し，家庭学習の習慣化に取り組む。・・・家庭学習の手引き・わが家の家庭学習
 - ③家庭と連携し，生活習慣の改善に取り組む。・・・わが家のおきて

その他

- 保健・給食・図書先生方は，1年間の実践の紹介を3学期に行う。